

## 三重県亀山市

## 白地水辺エリアを核とした官民連携モデリング事業

【テーマ】 持続可能なインフラマネジメントの実現 / スモールコンセッションの推進 / グリーン社会の実現 / その他（水辺の空間創出）

【対象施設】 道路 / 橋梁 / 公園 / 上下水道 / 河川 / 港湾 / 遊休施設 / その他（ ）

【事業方式】 コンセッション / その他のPFI / 包括的民間委託 / その他（ ）

未整備の水辺を“白地資源”として価値転換し、民間参画と駅周辺・歴史資源を結び回遊モデルを創出。官民と地域が協働する運営体制を整え、水辺の目的地化と持続的な地域経営を実現する官民連携モデルをめざす。

## ①解決したい課題

亀山市では、鈴鹿川の河川空間を活用した「かわまちづくり」を推進しているが、以下の課題により、水辺空間が都市の価値向上に十分寄与していない状況である。

（１）未整備の水辺空間が活用されず、都市の潜在力が発揮されていない。

- ・市街地中心部に近接するにもかかわらず、日常的な滞在・交流を生む空間・機能が不足している。
- ・「目的地」としての魅力が弱く、民間事業者が収益を確保しにくい状況にある。

- ・河川区域で建築等の制限を受ける中でにぎわいをつくるための施設をどのように整備するか。

（２）水辺と市街地（商業・歴史資源等）との連携が弱く、利用のきっかけが不足している。

- ・旧東海道等の地域資源と水辺空間のつながりが十分でなく、イベント等も含めた来訪・滞在の導線づくりが課題である。
- ・一方で、回遊に依存しない「目的地化」や、鉄道会社等との連携による集客施策を検討する必要がある。

（３）官民連携による管理運営体制が未確立で、持続可能な運営の見通しが立っていない。

- ・地域住民や商工会議所、地元企業、関係団体が構成されるかわまちづくり協議会を中心とした官民連携の枠組み（協議会・コンソーシアム等）を具体化し、実行体制を構築する必要がある。

## 【対象整備範囲の概要】

広さ：左岸 約1.6ha、右岸 約1.9ha

位置：鈴鹿川の高水敷を中心とした河川区域

種類：高水敷の広場の活用や親水性を高めるための滞留空間の整備等

備考：具体的な整備範囲・内容・配置等は、今後協議会での議論および河川管理者との調整を踏まえ、段階的に具体化する予定

## ②課題解決の方向性等

本事業では、令和7年度設立予定の「亀山市かわまちづくり協議会」を基盤に、水辺空間の利活用を継続的に担う事業運営体制の構築を目的として、以下の方向性で課題解決を図る。

（１）未整備の水辺空間を「白地資源」として再定義し、民間参画を前提としたプレ事業実施

- ・白地エリアから民間の視点を早期段階から導入し、公共と地元商工会議所を含めた官民で共創するスキームを構築する。
- ・建築ではなく民間が運営する移動可能な施設（コンテナやトレーラーハウス等）なども活用するなど柔軟な官民連携の検討を行う。

（２）駅周辺・水辺・歴史資源を統合した回遊モデルの構築

- ・旧東海道などの地域資源と水辺空間を面的につなぎ、水辺を目的地化し、市街地側（商業・観光）への導線を結ぶことで波及効果が期待できる。

（３）官民＋地域の三者同期型の管理運営モデルの構築

- ・地域住民や商工会議所、地元企業、関係団体が主体となることで、地域に役割と利益が循環し、運営ノウハウが地域内に蓄積される。
- ・将来の直営・指定管理・民間参画の最適な組み合わせ及び段階的な官民連携手法を検討する。



## ③課題解決のイメージ・効果

鈴鹿川の自然を活かし、多世代が日常的に集い、イベントやスポーツ活動にも対応する多様な交流拠点としての水辺空間を創出するとともに、旧東海道の歴史・文化に触れられる回遊性の高い「にぎわいの環道」を形成し、地域住民や商工会議所、地元企業、関係団体を中心とした参画体制のもとで役割と利益が地域内で循環する地域主体の運営を実現する。

## その他

本提案に関連するシーズ提案を通じて、民間の創意や技術を取り込み、水辺の目的地化や回遊性向上、持続的な運営体制の構築を一層促進し、かわまちづくり計画の円滑な推進につながることを期待したい。